

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 6 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
A simple score for predicting alcohol relapse after liver transplantation: results from 387 patients over 15 years. 肝移植後の再飲酒を予測する簡易スコア	
執筆者	
De Gottardi A, Spahr L, Gelez P, Morard I, Mentha G, Guillaud O, Majno P, Morel P, Hadengue A, Paliard P, Scoazec JY, Boillot O, Giostra E, Dumortier J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Intern Med. 2007 Jun 11;167(11):1183-8.	
キーワード	
肝移植、飲酒の繰り返し、後戻り、アルコール性肝硬変、高リスクアルコール依存症回帰スケール (HRAR)	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>肝移植後、再び飲酒を繰り返すことは肝移植にマイナスの影響を及ぼしうる。この研究の目的は肝移植後に有害量の飲酒状態へ後戻りすることに関連する因子を明らかにすることとした。</p> <p>方法：</p> <p>スイスのジュネバ、フランスのリヨンで 1989 年から 2005 年にアルコール性肝硬変で肝移植を受けた 387 人の患者を連続して評価した。平均年齢±標準偏差は 51.3 歳±7.5 歳であった。追跡期間は 61.2±47.5 ヶ月であった。再飲酒とそれに関連した要因を調べた。</p> <p>結果：</p> <p>肝移植後の有害な飲酒の再開率は 11.9%であった。単変量解析では飲酒への回帰は 50 歳以上 (P 値=0.04)、1995 年より以前の肝移植 (P 値<0.05)、禁酒が 6 カ月未満 (P 値=0.02) 精神疾患の同時罹患 (P 値<0.001)、普段の生活でパートナーがいること (P 値<0.05) 高リスクアルコール依存症回帰スケール (HRAR) で高得点であること (P<0.001) であった。多変量ロジスティック回帰により以下のような再飲酒に関する独立した因子が明らかになった。禁酒が 6 カ月未満 (オッズ比、3.3 ; 95%CI(信頼区間),1.2-9.3)、精神疾患の同時罹患(オッズ比、7.8 ; 95%CI,3.1-20.0)、HRAR で 3 スコア以上(オッズ比、10.7 ; 95%CI,3.8-30.0) (P 値=0.001)。こうした因子が全くない患者は飲酒状態へ後戻りは 5%であったが、1 個因子を有する者の後戻り率は 18%、2 個因子を有する者では 64%、3 個因子を有する者では 100%であった。</p> <p>結論：</p> <p>アルコール性肝硬変により肝移植を受けた患者の大規模コホートでは、肝移植の待機リストに載る前の禁酒期間が 6 カ月未満であること、精神疾患に同時罹患していること、HRAR で 3 スコア以上であることは有害量の飲酒再開と関連していた。1 つ以上の因子があればこの危険性は 50%以上増加した。肝移植前の評価ではこうした因子を正確に決定する必要がある。</p>	